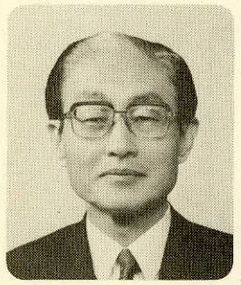
ご　挨　拶



財団法人 成長科学協会
理事長　**鎮目　和夫**

新年を迎えると同時に、第三回公開シンポジウムを開催できますことを大変嬉しく存じます。私共成長科学協会では、昭和52年設立以来、人の成長に関する研究や研究助成、成長障害者の診断・治療に関する指導、協力等を行って参りましたが、一昨年、次代をになう日本の子ども達の心の発達が身体の成長にもまして大切なことに思いをいたし、協会内に「心の発達研究委員会」を設置、活動を開始いたしました。これまでに公開シンポジウムと研究者集会を２回ずつ行い、子どもの心の発達の問題について、幅広い角度から考え、討論して参りました。

本日のテーマはご参加の皆様にとって大変身近で関心の高い問題だと思います。じっくりと考え、又楽しみながら有意義な時をお過ごし頂きたいと思います。

心の発達研究委員会
委員長　**岡　　宏子**

「現代という時代、文化形態の中で〝育ちゆく子ども達に人間としての可能性〟の健やかな展開をもたらすには…」という願いのもとにスタートしたこの「心の発達研究委員会」も、公開シンポジウムを始めて２年目を迎えます。昨年は、この頃脚光を浴びるようになった「父親の問題」をとりあげたり、現代の子ども達に心の発達の問題があることが、教育現場、親達、また相談の専門家等々から報告されている現状をふまえ、「子どもの発達は本当におかしいのか」という難テーマにも真正面から取り組むなど、意欲的な企画のもとに集会を重ねて参りました。今年は更に子どもの発達をめぐる現代社会の具体的な問題点に踏み込んでの充実した集会を展開してゆきたいと思います。

今回は働くお母さんと子どもの問題です。働く母親の現状、その子どもの心の奥、親子の本音に迫ってみたいと思います。

「働く女性と子ども」開催にあたって

育児にも積極的に関わる平成の父親像によって、これまで子育てにからむ問題は「すべて母親だけ」とされてきた社会通念は変わりつつあり、働く母親を社会的にも支援し、保障すべきだという世論が盛んになってきています。母親が、夫や周囲の人、社会に助けられ、働きながらちゃんと子育てができるにはまたその子ども達が健やかに成長してゆくには、我々は何をどう考え、また行動してゆけば良いのか追求したいと思います。

女性の職場進出が目立ってきている昨今ではありますが、依然として育児休暇がとりにくい、その間の所得保障がない、また労働時間が長いなど、子育てに問題をもたらす条件は数多く残されております。家族や周囲によって支えられ、育児も仕事もうまくこなせるという恵まれた環境にある人もいますが、それは偶然といえるほどの良い条件が揃ったためであり、多くの母親の場合は、恵まれない条件下で不満を抱いて頑張るか職場を離れざるを得ないでいるのが現状です。そのような働く母親が、実際今までどうしてきたのか。子どもが病気になった時、急に仕事を休まなければならなくなった時、周囲の目は？賃金は？といろいろな具体的問題が続出してきます。また働く母親のもと子ども達は自分の母を、自分の置かれた環境をどの様に見、感じてきたのか。その心の発達のし方に親子間の心情的な面で問題はなかったのか。働く母親を支えている人々、例えば保育者達は、間近でどうその母と子を見、また問題を感じ、どの様にそれを支えているのか。あるいは医師は？

子どもの心の発達という点から考えると、どんな場合にあっても無視してはならないこともありましょう。それは何なのか、またその問題点にどう対処できるだろうかを考える必要があるはずです。女性の働き方が多様化した現代において、働く母親をどうサポートし、またその子ども達に対して社会全体としてどう対処することができるかの検討に、皆様方のご参加を期待しております。

心の発達研究委員会

委員長	岡　宏子	(大学セミナーハウス館長、聖心女子大名誉教授)
委　員	東　　洋	(白百合女子大児童文化学科長、東大名誉教授)
〃	小林　登	(国立小児病院長、東大名誉教授)
〃	原ひろ子	(お茶の水女子大女性文化研究センター教授)
〃	大野澄子	(聖心女子専門学校保育科長、日赤医療センター)
〃	丹羽洋子	(育児文化研究所長)
〃	森　玲子	(東京都立川高等保育学院)
顧　問	鎮目和夫	(成長科学協会理事長、東京女子医大名誉教授)

プログラム

テーマ　「働く女性と子ども」

司会　原　ひろ子

13:00～14:20	開会　あいさつ	鎮目　和夫
	問題提起	原　ひろ子
	演者からの提言	三辺マリコ
		丹羽　洋子
		保坂　純子
		香坂　隆夫
14:20～14:30	休　憩	
14:30～16:20	ディスカッション	
	発達心理学者からの提言	岡　宏子

演者紹介

原　ひろ子

お茶の水女子大学女性文化研究センター教授。当研究委員会委員。
日本における女性文化人類学者の草分け的存在。個性的で鋭い視点と人間味豊かな発想を持ち、女性学・子育てに関する著書も多い。一児の母。

三辺マリコ

東京大学法学部二年生。
数学者の母親に育てられることを体験。将来は専業主婦を夢みているという。

丹羽　洋子

育児文化研究所所長。当研究委員会委員。
育児に関する著作活動や講演会などで日々忙しいかたわら、二人の娘さんを育て、また多くの悩む母親の相談にのった経験なども持つ。

保坂　純子

東京都公立保育園研究会会長。
長年種々の働く母と子の例を目のあたりにし、それを支え続けてきた。多様なその問題に支援の必要性を痛感している。

香坂　隆夫

国立小児病院消化器科医長。
消化器科の診療とともに心理相談も行っている。日頃問題に感じている点について小児科の臨床からみた親子関係を。

岡　宏子

(財)大学セミナー・ハウス館長。当研究委員会委員長。
心理学はもとより教育・医・科学、芸術に精通。行政機関各種委員会や講演会など多方面で活躍。気さくな人柄と適確でわかり易い発言にファン層が厚い。